

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成22年度技術情報第12号(イチゴの炭疽病) について (送付)

下記のとおり情報を取りまとめましたので送付します。

育苗ほで炭疽病の潜在感染株が増加傾向にあります。高温期となり発病株の増加が予想されますので、防除を徹底してください。

1 農作物名 イチゴ**2 病害虫名** 炭疽病**3 予報内容**

(1) 発生地域 県本土

(2) 発生量 並～やや多

4 情報の根拠

(1) 7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率35% (平年42%) と平年並であった(図1)。

(2) 7月上旬の子苗の調査では、潜在感染株確認ほ場率が75% (前月76%) と前月並であったが、潜在感染株率は18% (前月11%) と前月より高かった(表1, 図2)。

(3) 6～7月の降水量は平年よりも多く、7月6半旬にもまとまった降雨がみられた(図3)。

(4) 向こう1か月の気温は高いと予想されており、8月以降発病株の増加が予想される。

調査場所	7月上旬			6月上旬			5月上旬			調査地点
	調査ほ場数	潜在感染ほ場数	潜在感染株率(%)	調査ほ場数	潜在感染ほ場数	潜在感染株率(%)	調査ほ場数	潜在感染ほ場数	潜在感染株率(%)	
日置	5	2	9	5	4	11	5	1	1	日置市伊集院町中川
川薩	5	4	15	5	3	8	5	3	6	さつま町湯田・白男川
曾於	6	6	27	7	6	11	4	2	4	志布志市有明町
合計	16	12(75%)	18	17	13(76%)	11	14	6(43%)	4	

注) () はほ場率, 潜在感染株率は平均値。

1ほ場当たり20株の親株から外葉を採集し, 調査した。但し7月は子苗中心に採集した。

5 防除上注意すべき事項

(1) 雨よけ, 排水対策及び防風対策を徹底する。灌水にはできるだけ水滴が小さくなる灌水チューブ等を用い, 適正な水管理に努める。

(2) 地床育苗では, ビニールマルチ等で降雨等による土のはね返りを防止する。

(3) 育苗ほ場周辺や育苗ベンチ下の除草を徹底する。

(4) 薬剤による予防散布は10～14日間隔で行い, 株元を中心に十分量を散布する。発生が認められた場合は散布間隔を短縮する。特に台風やまとまった降雨の前後は薬剤散布を徹底する。

(5) 古葉は潜在感染している場合が多いので, 新葉展開後は降雨時を避けて摘葉する。

(6) 生育不良の親株や萎凋した苗は, 早急に除去し, ビニール袋等に入れて適切に処分する。

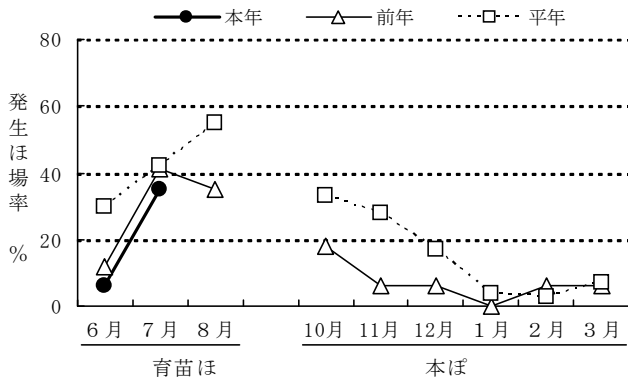


図1 炭疽病の発生ほ場率 (イチゴ)

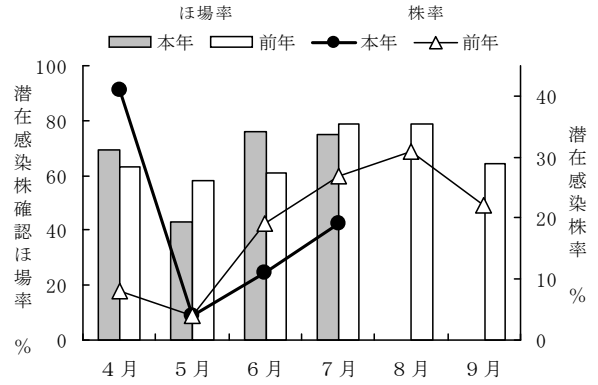


図2 炭疽病の潜在感染株確認ほ場率と株率 (イチゴ)

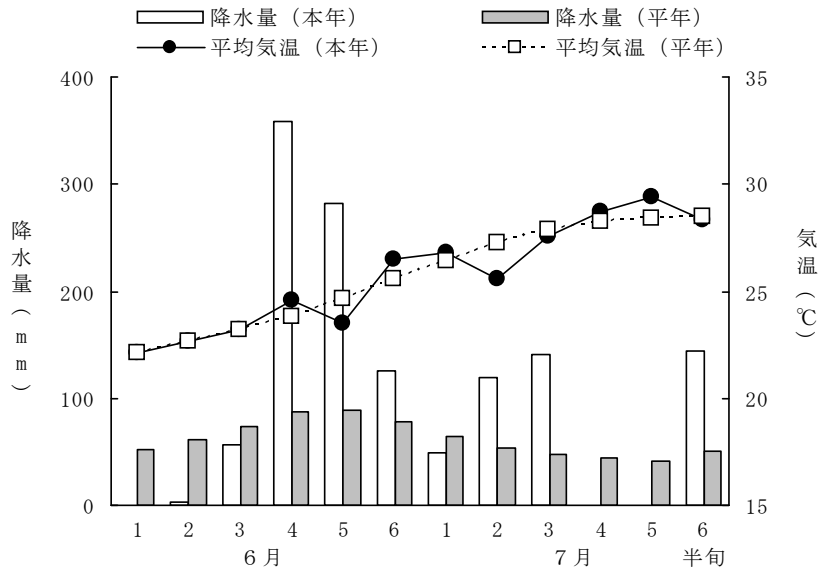


図3 6～7月の平均気温と降水量 (観測地：鹿児島市)